
秘密

はっぴい

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秘密

【Nコード】

N5083I

【作者名】

はつぴい

【あらすじ】

華山凜、高校生になりました。なのに、初日から寝坊……。もう高校生なんだからしっかりしないといけないと思います。(ちょー他人事です)でも、私は朝にとっても弱いのです。いいわけですけど。私は今日から藤咲高校の一年生です。でも乗り気ではありません。誰も中学で仲が良かった人が誰もいないのです。それは、私が中学校の時に全然勉強しなかったのが悪いんですけど。高校になってから新しい友達ができなかったらどうしようと私は困っています。

私の運命が変わる「親友」との学園生活が始まりました。私と凜は高校入ったときからずっと仲良しだった。私たちはいつでもどこでも一緒にいた。私はずうっと一緒にいられるって思ってた。でも学園祭から私と凜はギクシャクし始めていく……。凜の秘密とは・
・・・。それを知った私はどうなるのか……。私と凜との友情のお話のスタート！

登場人物の自己紹介！！

『藤咲高校 1年3組』

ももしろ ちようか

桃城蝶夏

元気でちよっとおつちよこちよいな女の子

この物語の主人公（途中から凜が主人公）

このクラスの副委員長をやっている

華山 凜

おしとやかな成績優秀な女の子

でも実は誰にもいえない秘密がある

輝と学園祭の実行委員になった

もろぼし けい

諸星 蛭

学校で1、2を争うイケメンの草食系男子

今でも忘れられない人がいるため、その人以外好きな人がいた

ことはない

このクラスの学級委員長をやっている

じくべつ じくべつ

神宮司 輝

神宮司グループの御曹司

蛭と中学校からの大の仲良し

凜と一緒に学園祭の実行委員になってしまった

小説の始まり～！始まり～！

私は今日から藤咲高校の1年生。

でも気付いたときには8時13分！

てことは、学校に8時30分行く時間10分をひくとあと7分しかないじゃん！

そう思つて、私は急いで布団から起き上がった。

私はお母さんに、

「寝坊したあ。なんで起こしてくれなかったの??あゝもう、しかもなんで目覚ましならないの!!」

そうしたらお母さんが、

「もう高校生なんだから自分で起きなさいよ!ちゃんと高校生になるという自覚持ちなさいよ。」

と、逆に怒られてしまった。

実は私は一回目覚ましを止めるために起きたらしい。

でも、結局また寝てしまつて……。 (私には止めた記憶がないのけれど)

入学式のときぐらい早く行こうと思つてたのになあ。

もうこんな時間になつちゃったから朝ごはん食べてるヒマないし。

お母さんには高校生なんだからきちんとしなさいって言われるし。

もうこんなこといつてる時間ないや。

「行つてきまゝす!」

「ご飯食べて行かないの?パンぐらいでも食べていきなさいよ。」

「そんな暇ないの!!ねえお弁当は??早くしてよー急いでるんだから!」

「今日は午前中だけでしょ!そのぐらい自分で覚えてきなさいよ!まあいいから早く行きなさい。」

「はあゝい行つてきまゝす。」

「行つてらっしゃい。」

私はダッシュで藤咲高校へ行つた。

初日から遅刻なんて嫌だったというかはずかしいからんだけど。
こんなことを話しているうちに正門に着いた。
2分前だった。

私は自分のクラスがどこか見に行った。

「え」と、私のクラスは・・・・・・・・・・」

「あつた〜〜！3組だ　！！」

私が独り言を大声で言ってしまったことに気がついたとき、
かわいい女の子がはなしかけてきた。

「あの・・・・・・・・私も3組なんで一緒に行きませんか？？」

「いいですよ。行きましょう！」

その子の第一印象は静かそうな子だった。

でもしゃべって見るととっても明るくてちょっとバカっぽいところ
もあって、とっても話が合ったからわたしたちはすぐ仲良くなった。

今日の午後にクラス委員決めがある。

私は蝶夏と一緒になんか簡単なのに入ろうと思ってたのに蝶夏はク
ラスの副委員長になりたいらしく私は何にしようか迷ってます。

だんだんみんな決まっていくのに私はまだ決まってません。

どうしよう・・・

「じゃあ次、学園祭の実行委員やるやついないか？男子一人、女子
一人ずつだぞ。」

いつの間にか蝶夏は、なりたいのになれていたらしい。

でも、この委員はめんどくさいからやだけどなあ。

「じゃあ誰か推薦しろ。」

蝶夏が急に手を挙げて、

「華山さんがいいと思います。」

えっ・・・・・・・・私やだよ。何推薦なんかしちゃってるんだよ！蝶夏の
バカ！！

「じゃあ華山、頼んでいいか？」

私は断れず「はい」と返事をしてしまった。

めんどくさい仕事を任されてしまい嫌だなあと思った。

うれしくもあり、めんどくさい事を任されて
なんかのらない高校生活1日目の始まりだった

今日、学園祭実行委員の集まりがある。

めんどくさいこの係にはなりたくなかったのは第一だけど、男子と
ってというのが嫌なんです！

前から男子としゃべるの苦手で……。

しかも、その男子が神宮司 輝なんです！

ちょ がつくほどのおボツチャまでしかもちょ 生意気。

イコール私が一番苦手なタイプ。

ぜんぜん乗り気にはならないけど、なったものはきちんとやらない
と気が済みません！

だから頑張ります！

放課後、部活のある蝶夏またあとで教室で会う約束をしてから集ま
りに行った。

でも、私のクラスの男子 神宮司だけがいつまでたっても来なかつ
た。

私はサボったんだなと思った。

正直そんなに来るとか期待してたわけじゃないからいいんだけど。

でも、それで怒られる私の気持ちも考えて欲しいです！

もうちょつときちんとした人の方がよかったなあ。

うちのクラスの学級委員長みたいな。

私はこんな話を一方的に蝶夏に話したら

「なんかその二人ってちょー仲いいらしいよ。幼馴染的な？感じ？」

「えっ誰と誰が？」

「だから神宮司とうち委員長の諸星が」

「えっそれってホント??」

「うん。だって本人から聞いたし。私も最初聞いたときはめっちゃびっくりしたんだけど。」

「なんで？性格真逆の二人が？」

「私も聞いたんだけど、なんか気合うつていうかなんかずっと一緒にいるっていうかって感じなんだって。」

「へえ、そんなこともあるんだね。」

「じゃあ諸星君に明日は行くように伝えといてもらおう？今日、凜待ってる間にメアド交換したから。」

「うーん。じゃあよろしく！明日の朝8：00に集まりあるから。」

「分かった。伝えとくよ。」

そう言って私と蝶夏は家に帰った。

次の日、私はいつもより早く学校に来た。

だから眠くてしょうがない！でも、あいつに早く来いって言っといて自分が遅れたらどうしようもないって感じなんで。

やっぱり教室に行ってみるとアイツはいなかった。

でも、その5分後ぐらいに誰だか分かんなかったけど教室に入ってきた。

「あのさあおまえって華山 凜？」

「そうですけど。」

「昨日はごめんね。蛭が教えて教えてくれたんだよ。忘れててさあ。」

「

もしかして神宮司 輝？」

「そうだけど。」

「今日は来てくれたんだ」 昨日はサボったのに。」

「サボったんじゃないってば。ごめんって言ってるじゃん！」

「あっそうですか。では集まり行きましょうよ！」

「そうですね！」

なにあいつちょくム力つくんですけど。

ウザいです！

なんで自分が昨日行かなくて怒られてんのに逆切れしてくるわけ？？

だからあ ゆうタイプの男子って嫌いなんだよね。

アイツと学園祭まで一緒にやんなきゃいけないなんて嫌だなあ。

ハア~~~~。

明日から学園祭の準備だあ~~~~！

10月27日

文化祭まであと7日　く文化祭準備1日目く

今日はとっても楽しかったです！

なんか、学級委員長と副委員長もいろいろ手伝ってくれることになったからでーす。

だってうちのクラスの副委員長は蝶夏なんだもん！

ずっとアイツと二人でやんなきゃいけないと思ってたから嬉しいです！

しかも、うちのクラスは『クレープ』をやるうって話になりました！私、実はクレープ大好きなんです。

だからちょー嬉しいですよ。

今日はアイツともいい感じで良かったし。

こんな感じで1日目が終わりました。

10月29日

文化祭まであと5日　く文化祭準備2日目く

今日は体調がすぐれません。

何か熱っぽいです。

ばれないようにずっと作り笑してたんだけど、

「体調悪そうだよ、保健室行く」って凜には見透かされてしまったようです！

びっくりだったのはあいつ（神宮司）が私の体調が良くないことを気付いたこと！

「大丈夫か」とか言われちゃってちょっと私的には嬉しかったりします。

（それは何でだか分からないけど）

そう考えると神宮司も悪くない奴だと思ってしまう。

（私って優しいことされるとみんないい奴だと思って・・・これってヤバイです・・・）

でも、学園祭までは何があってもがんばります。

1日でも休まないで学校行きます。
一つでも高校生活の楽しい思い出をとっておきたいから……

10月31日

文化祭まであと3日　　文化祭準備3日目

今日はみんなでクレープ作り。

蝶夏と神宮司と諸星君と。（みんなじゃないですね）

まずみんなで近くのスーパーに材料を買いに行きました。

関係ないものまで買っちゃったりして。

神宮司、クレープにきゅうりとツナ入れるとか言ってるし。

ホント変わったヤツだなあと思って。

でもそんな悪い奴じゃないっぽい。

なんか思ったよりいい奴って感じかな。

でもさっきの食べてみると結構イケちゃう系。

時間忘れてやってたから先生に初めて怒られた……。

貴重な体験だったよ。

こんな感じでとっても楽しい1日でした。

11月2日

文化祭まであと1日　　文化祭準備最終日

明日は文化祭当日だということで今日は準備でみんな大忙し。
材料買いに行ったり、看板作ったり。

それと、紅葉ちゃんっていう裁縫のうまい子がクラスの衣装を作ってきてくれたよ。

ちよ　かわいくて着るのが楽しみ。

私もなんか手伝えると良かったんだけど、体調悪くてみんなにそこで休んでろって言われて・・・。

私はいいいクラスメイトを持ったなあと思った。

ずうっと迷惑かけてごめんね。

でもありがとう。

私明日は絶対行くからね。

高校生活最後の思い出を作りだね。

11月3日、文化祭当日になった。

だけど昨日より気分がすぐれないっす。

朝学校に行ったら凜が

「大丈夫？」

と聞いてきてくれてなんか嬉しかった。

「大丈夫に決まってんでしょ！それじゃなきゃここにいないから。

体調悪いのに来て迷惑になるのだけはやなんだってこと知ってるでしょ。」

「そんだけ元気なら大丈夫ね！」

実はここんとこ調子悪かったから入院しろって医者から言われてたんだよね。

でもどうしても最後の楽しい思い出作りたかったから今日はどうしても倒れるわけじゃないんだよね。

つてわけで神様お願い！今日だけはがんばって！！

午前中私と蝶夏は係じゃなかったからいろんなところを見に行った。途中からなんか神宮司と蛭君と一緒に回るようになって・・・。

。

しかも蝶夏と蛍君は消えちゃうし。
だから神宮司とずうつといっしょで。

いっつも4人でいっしょにいるから何話したらいいか分かんなくて
嬉しいやらドッキドキやらで何したんだかよく覚えてない。

でも私が気付いた時には、病院のベッドの上にいたんだ。
その時私は倒れてこの病院に運ばれてきたことを知った。

蝶夏、神宮司、蛍君がいた。

みんな心配そうに私のことを見つめていた。

私は、

「みんな迷惑かけてごめんね。」

謝ることしかできなかった。

「何で言ってくれなかったの？親友でしょ！」

「俺らにだって言ってくれたってよかったじゃん」

「ごめんね。心配掛けなくなかったんだよ。そういえば文化祭途中
じゃないの？」

「それは大丈夫。先生に抜けるって言ってあるから。」

「ごめんね……」

みんなわたしの病気のことがお母さんから聞いたみたいだった。

私の寿命があと半年しかないってことも。

私はみんなに合わせる顔がなかった。

そんな重要なこと今の今までずっと黙ってたんだもん。

私はみんなを裏切ったんだなあと思った。

でも、みんなは普通に話しかけてきてくれた。

しかも毎日蝶夏はお見舞いに来てくれた。

私と無駄話をしにね。

なんか蝶夏、蛍君と付き合い始めたんだって。

まああたしもあんなに嫌ってた神宮司が今恋人なんだよね。

わたしは1回は断ったんだけど、アイツしつこいから……。

まあ、あたしもあいつのこといつの間にか好きになってたけどね。それで蝶夏がね、でんきになったら4人でダブルデートしようだって。

なんか蝶夏が気を使っているのがすごく分かった。それを感じるだけでつらかった。

だって私の病気は治らないものだから。それをもう一回思い知らされたようで嫌だった。

私の寿命はタイムリミットに近付いていた。

それとっしょに体調が次第に悪化してきた。

この時私はいつ死んでもおかしくないなあと思った。

私は明日の朝を迎えられるのだろうか。

寝てしまっただろうと目が覚めないのではないかと思って、私は寝ることができなかった。

とにかく死ぬのが怖かった。

みんな何の変わりもなく接してくることにさえ怖さを感じていた。

私はいつの間にか死んでいた。

気付かないうちに天国にいた。

みんなありがとう、今までありがとう。

お母さん、こんな子をここまで育ててくれてありがとう。

お父さん、お金のかかる娘でごめんね。

蝶夏、ずうっと親友でいようね。

神宮司、大好きだったよ。

蛍君、蝶夏と幸せにね。

みんな、こんなあたしと一緒にいてくれてありがとう。

（後書き）

はっぴい です。

ここまで読んで下さりたいへんありがとうございました。
途中から急に主人公が変わってしまいましたすみません。
話がグチャグチャになってしまったことも申し訳ないと思っています。
す。

ここからはこのお話のちよつと続きのお話です。
読みたい方だけ読んでください。

（凜が死んでから（蝶夏））

私は凜のお母さんから渡したいものがあると言われ凜の家に行った。
そうしたら日記らしきものが渡された。

中を見てみると、

凜の日記 　＼ R i n ' s 　 d i a r y 　＼

今日から日記を書こうと思います！！ B y 凜

約束事

？毎日書く（たぶん無理）

？その日に合ったことを細かく書く。

？いっぱい書く。

つてわけで3日坊主にならないようにがんばります。

と書いてあった。

次々見ていくと学園祭前のことがいっぱい書いてあった。

なんか見てたらまた泣きそうになってこらえるのが大変だった。
最後のページに私へのコメントが書いてあった

蝶夏へ

ごめんね。

これを読んでるってことはわたしは死んじゃったんだね。
わたしはずっと蝶夏といっしょにいたかったよ。もっというんな話
しなかったよ。

でも死ぬ前に蝶夏に会えて良かったよ。

文化祭、いっしょに回れたね（邪魔が入ったけど・・・）

一生の思い出の中で一番たのしかったよ。

けんかもしたよね。

でもけんかして分かったこともあったよ。

わたしの親友は蝶夏しかないんだって。

蝶夏と一緒にいない学校生活がこんなにつまらないものだったなんて。

もう毎日が幸せだった。

私、蝶夏がいて幸せだった。

今までいっしょにいてくれてありがとう。

元気だね（わたしの分まで一生懸命生きてね）。

バイバイ

P・S 蛍君と仲良くね

凜

E
N
D

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5083i/>

秘密

2010年10月22日00時15分発行